

〈彙報〉

平成十年度 国文学科活動報告

国文学科芸能鑑賞—文楽鑑賞—

日時 平成十年六月十八日(木)

場所 国立文楽劇場(文楽鑑賞教室)

演目 新曲 釣女・傾城阿波の鳴門 十郎兵衛住家の段

解説 文楽の楽しみ

学生の多くは何らかの形で「文楽」に接した経験を持つているが、今回は鑑賞教室としての公演であり、取りつきやすく、興味深いものであった。「釣女」に笑いを誘われ、「傾城阿波の鳴門」では哀れな「おつる」の身の上に胸をあつくした学生もいる。

文楽全般について、さらに大夫・三味線・人形遣いのそれぞれについての解説も丁寧で面白く、学生たちの興味を一層喚起したようだ。学生が参加してのワークショップも貴重な経験となったようで、国文学科芸能鑑賞として有益であった。

国文学講演会

日時 平成十年六月二十九日(月) 一時二十分～三時

会場 南港学舎講堂

講師 東京大学大学院人文社会学系研究科助教授

藤原 克己 先生

演題 「源氏物語の紫の上について」

平成十年度は、源氏物語や王朝漢詩のご研究をなさっている藤原克己先生に、ご多忙の中ご講演をお願いした。

源氏物語の人物造型をめぐるご研究の中で、「紫の上」に焦点を充ててお話くださった。「エミール」の一節や西行の歌なども援用されつつ、紫の上の△駆ける少女▽としてのイメージについて大変解りやすい言葉でお話いただいたことは、古典にあまり触れる機会のない学生諸姉にも解りやすいものであった。先生のお人柄が滲み出たご講演であったと思う。

「子ども」であることにはためらいを感じつつも、子どもの頃の自分に思いをいたす彼女達にとっては、かなり印象に残る講演であったようだ。ゼミの場でもしきり話題になったことは、やはり少女から大人への階梯が描かれた「紫の上」についてで、ご講演の中で触れられなかった箇所を共に講読したゼミもあると聞く。大変楽しいひとときであった。

文学遺蹟めぐり―吉野方面―

日時 平成十年十一月十二日(木)

行程 近鉄あべの橋駅(集合・点呼)：近鉄吉野駅下車：ロープウェイ乗車：吉野山駅下車：徒歩：蔵王堂(写真撮影)・吉野ビジターセンター・解説・昼食：自由散策(吉水神社・勝手神社・竹林院拜観)：蔵王堂集合・点呼・自由解散：吉野駅

対象 国文学科一年生

今年度の文学遺蹟めぐりは、吉野山を訪れた。はじめに蔵王堂と吉野ビジターセンターで写真撮影と「吉野と文学」と題しての簡単な解説を聞いたあと、自由散策となった。

九月下旬の台風の影響もあって工事している処もあり、又その日は曇天で肌寒いくらいであったが、ところどころ紅葉しており、山上の雰囲気を楽しむことができた。吉水神社では宮司さんの話もうかがうことができた。本町にお勤めだったとのことで「相愛」と聞いて歓迎して下さった。

時間のこともあり散策の範囲は限られたが、もの足りなかった学生は次の機会にはさらに奥に西行の遺蹟を訪ねたり、あるいは吉野川に下り、萬葉の旧蹟を訪ねたりすることを期して帰途についたことであった。

平成十年国文学科ゼミ活動報告

〈柿谷ゼミ〉

日程 七月一七日(金)

山鉾巡行見学及び平安京遺蹟
十一月二十三日(月)

嵐山・嵯峨野方面

〈北谷ゼミ〉

日程 八月二十三日(日)・二十四日(月)

紀伊由良・岩代・牟婁の湯踏査

十月十一日(日)

佐保・佐紀路(萬葉集臨地学習)

十二月十三日(日)

紫葉宮方面(萬葉集臨地学習)

〈鈴木ゼミ〉

日程 九月二十日(日)

吉野 蔵王堂他

十月八日(木)

サントリーミュージアム天保山

〈橋本ゼミ〉

日程 一月十日(日)

松阪 宣長記念館他

今年度、本学において次の学会が開催された。

仏教文学会関西例会

日時 一月三十日(土) 午後二時から五時迄

場所 相愛女子短期大学 厚生施設棟小ホール
発表題目 一、中川久盛『伊香保記』をめぐって

大谷大学研修員 砺波美和子氏

二、『古事談』第五神社仏寺

―石清水八幡話群を中心に―

大谷女子短大(非) 生井真理子氏

三、『発心集』女性説話への一考察

大阪府立大学 田中 宗博氏

尚、仏教文学会に併せて、当日午後〇時より三時まで、本学貴重資料室において故田中重太郎先生蒐集の書を中心とした「春曙文庫」の展覧が行われた。